

～目次～

1. T K K活動
2. 行政等の活動
3. 関連団体の活動
4. 役員報告 -ノースカロライナの脳損傷関連施設を訪問

---

## 【1】 T K K活動

\*\*

### ●家族相談交流会、8月11日（水）午後、都身障センター

○11月6日（土）、12月6日（月）は都主催の家族相談交流会として開催されます。

11月開催は初めて立川で開催されますので、都西部の方はこの場をご活用下さい。

詳細、申し込みは：

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shinsho/oshirase/soudankouryuukai/index.html>

### ●予算要望書提出、都議会各党派および東京都へ、都議会および都庁

9月1日 民主党、共産党、生活者ネットワーク

3日 公明党、

7日 東京都

要望書はこちらから：

[http://www.brain-tkk.com/index/show\\_information.php?boardAct=view&readNum=64](http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=64)

### ●[講座] 高次脳機能障害のグループ訓練、9月11日（土）、10月9日（土）の両日、神田グリーンホール

予想以上の参加者で、両日で延べ180名の方々に受講いただきました。

地域的には東北～広島、また四国、九州、沖縄の各地から、組織としては、各地の高次脳機能障害の支援拠点、国リハ、関東近県のリハビリセンター、病院、福祉、行政他、多様な支援者、指導者にお集まりいただきました。

講演頂いたのは、グループ訓練および家族向けのケア講座の実践報告書「高次脳機能障害のグループ訓練」掲載10編の実践報告のうちの4編。

報告書という淡々とした紙面に比べて、講演形式では実践内容が4人の先生の口から熱い思いで語られ、有意義な場であったと思います。（報告：矢野久喜）

なお当日の資料が若干残っています。ご希望の方には1000円／冊（送料込）で販売させていただきます。ご希望の方は、[info@brain-tkk.com](mailto:info@brain-tkk.com) までご連絡下さい。

---

## 【2】 行政等の活動

\*\*

- 第7回 相談支援体制連携調整委員会、8月4日夜、都心障センター  
議題：○22年度支援普及事業の実施予定  
○地域支援ハンドブック作成部会について 他

- 厚労省 高次脳機能障害者支援関連ブロック会議、8月5日 大宮
- 高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会、9月27日、都心障センター

第1回地域支援ハンドブック改訂作業部会

本部会は、平成18年度に作成した「高次脳機能障害者地域支援バンドブック」を新たな内容に改正するために設置されたもの。当時に比べると、当障害に対する地域での理解は進んでいるが、さらなる支援の充実をめざし、市町村の窓口職員が日々の業務に活用できるよう、より実践的な内容とすることになった。なお、高次脳機能障害の範囲は、現行のハンドブックと同様に10の症状とされる。

発行は、平成23年3月。区市町村の障害福祉主管課、保健所/保健センター、相談支援事業所などに配布される。委員は、首都大学東京の渡邊修氏ら7名。TKKより田辺の他、区市町村の委員として池田が入っている。事務局は東京都心身障害者福祉センター。第1回の作業部会のあと、早速、各委員において作業に取り掛かっている。  
(報告：田辺和子)

- 第2回 高次脳機能障害者相談支援研修会 10月25日、都研修センター

「高次脳機能障害の社会的行動障害のある方への対応と家族支援」

<午前>

講演1：高次脳機能障害における社会的行動障害への理解と対応について  
先崎 章氏（東京福祉大学社会福祉学部教授）

<午後>

講演2：高次脳機能障害者の家族支援の視点について  
藤平 輝明氏（東京医科大学病院医療ソーシャルワーカー）

講演3：高次脳機能障害者のご家族の声  
NPO法人東京高次脳機能障害協議会会員家族

講演4：高次脳機能障害者の当事者・家族会活動の支援  
西脇 恵子氏（日本歯科大学附属病院言語聴覚士）

- 港区 講演会 「高次脳機能障害と回復への支援」

11月17日(水)午後、高輪区民センター 区民ホール

- ・高次脳機能障害の基礎知識と東京都の支援  
渡邊 修氏（首都大学東京大学院教授・医師）
- ・高次脳機能障害者の診断と治療的環境  
梗間 剛氏（東京慈恵会医科大学リハビリ医学講座助教・医師）
- ・高次脳機能障害者へのあきらめない支援  
池田敦子氏（NPO法人VIVID 代表理事）
- ・ピアとしてサポートするTKKの活動から  
細見みゑ氏（NPO法人東京高次脳機能障害協議会(TKK)理事長）

詳細、申し込み案内はこちらから：

[http://www.brain-tkk.com/index/show\\_information.php?boardAct=view&readNum=66](http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=66)

★柴本レイさん著 『高次脳機能障害の夫と暮らす日常コミック 日々コウジ中』  
主婦の友社出版部 1100円（＋税）、8月27日発売

「高次脳機能障害者と家族の会」会員の柴本レイさん（ペンネーム）が描いたコミックエッセイ。

本書は作者の夫コウジさんがクモ膜下出血により高次脳機能障害となり、以来リハビリを続ける日々の生活をほのぼのとしたコミックで描きました。夫が巻き起こす数々の騒動も、家族の深い愛情と絶え間ない努力、そしてちょっぴりユーモアを交えて解決されていく感動コミックエッセイです。

発売されて以来、あちこちで評判となり、快進撃を続けています。普通、家族はここまではなかなか語れない、というところまで描かれており、お読みになった当事者や家族の方は、きっと「そうそ！そうなのよね。やっぱりそうなんだ！」と共感された方が多いと思います。高次脳機能障害の症状の理解と言うだけでなく、

「家族支援」を考える上でも、家族や当事者のみならず、医療・福祉関係者や支援者、行政の方がにもぜひ読んでいただきたいと思います。

素晴らしいことに3版印刷が決まったそうです。柴本さんは高次脳機能障害について理解を増やしていくために、現在主婦の友社ホームページのコミックエッセイに参加しています。今後コウジさんのことだけでなく、いろいろな症状についても描いていければと話していらっやいます。脳血管障害と外傷や低酸素脳症、中年と若者、学齢期の子ども、男性と女性、受傷原因や部位のみならず立場で困難なことはさまざまです。家族の会としても、ブロック会や相談などで集められている症状や困ったこと、解決策などの事例をうまく発表できればいいなあと思っています。また柴本さんもあちこちから講演の声がかかり、大忙しです。彼女の活躍にも今後注目し、後方援護をしようと思っています。（報告：今井雅子）

●サークルエコ合宿、10月16日（土）～17日（日）（1泊2日）、  
習志野市立「富士吉田青年の家」

毎年会員はもとより、医療、福祉関係の方、事業所スタッフ、TKK役員等、多方面の方々をもお誘いし、一泊二日の合宿を実施してきています。

プログラムとしては一昨年の10周年記念合宿を期に「大いに語ろう会」を開催しています。

どんなところで、だれと、どんな暮らしをしたいのか、当事者、家族がそれぞれセッションをもちましたが、3年目の今年は、当事者、家族、支援者、一般参加者が共に語り合える時間を持ちました。

本人たちは表現がうまくできない方が多いのですが、受傷前のもや受傷後の作品や写真などを活用しながら、コーディネーターのリードで精一杯、自分の事を皆の前で表現していました。

今までにない“素敵”な時間、だったかもしれません。（報告：高橋 俊夫）

○NPO法人VIVID主催、 知って 支援 応援を！

「高次脳機能障害者と家族の新しい生活の構築に向けて」

11月20日（土）13：30～16：00、新宿区立牛込笹筒町区民ホール、定員100名、  
参加費500円

[講演] 長谷川 幹さん

成城リハビリテーションクリニック医師

脳損傷ケアリング・コミュニティ学会代表

[発表] 高次脳機能障害者・家族の体験

詳細、申し込み案内は、

[http://www.brain-tkk.com/index/show\\_board.php?boardAct=view&readNum=132](http://www.brain-tkk.com/index/show_board.php?boardAct=view&readNum=132)

○高次脳機能障害者のつどい調布ドリーム「設立9周年記念講演会」

11月28日（日）13:00～17:00、調布市総合福祉センター（調布駅徒歩1分） 2階  
定員100名、参加費300円、

第1部「脳損傷者を地域で支える～オーストラリア、ニュージーランドのコミュニティ・ケアの事例を通して、今後のあり方を考える～」

講師：麦倉泰子氏（関東学院大学文学部現代社会学科准教授）

コメンテーター：田中眞知子氏（社会福祉士）

第2部 リハビリプログラムの紹介（スライド、合唱発表、認知リハの体験）

メンバーたちが語る ～グループリハビリの持つ力～

申し込み：FAXまたはメールで、「講演会 申し込み」の旨を明記し、氏名・住所  
・電話番号および参加人数をお伝え下さい

FAX：042-593-4425（加藤）（10:00～22:00）

e-mail：[yume.ai@jcom.home.ne.jp](mailto:yume.ai@jcom.home.ne.jp)（矢田）

問合せ：042-483-5136（矢田）、042-481-7693（調布市社会福祉協議会）

---

#### 【4】役員報告

\*\*\*

■ノースカロライナ（米国）の脳損傷関連施設を訪問：田辺和子

6月にアメリカのノースカロライナ州の知人を訪ねた際、せっかくの機会だからと、TKKのリーフレットや資料などを持ってノースカロライナ脳損傷協会（BIANC）や近隣のいくつかの施設などを訪問しました。リハビリつきグループホーム（2ヶ所）、ケーリー支部の例会、就労支援センター、失語症の映画と交流の会などです。BIANCでは、脳損傷者支援の現状、啓発活動などについてお聞きし、2ヶ所のグループホーム見学の手配もしていただきました。

そのグループホームは、近隣の住宅地にある「Learning Service」というシステム。脳損傷の方々、十数名が日常生活の支援を受けて住みながら、心理士、OT、ST等の専門スタッフからカウンセリングや必要なリハビリが受けられるというもの。それだけに費用は1日、500ドルほどもかかるそうで、利用者は国や保険などからお金が出ているような人たちだということでした。

近くの映画館で支援団体（TAP）主催の、失語症の方の再現ドラマ「Aphasia Movie」があるということで見に行きました。もともと俳優だった失語症の本人が主演。失語症の再録ドラマですから、シンプルな筋立て、ことばもゆったりしていて画面を見ているだけでよく理解できました。失語症ゆえの主人公の失敗や戸惑い。日本なら、共感のしっとりしたうなづきが始まるシーンに、会場の当事者や家族たちからいっせいに笑い声や口笛などが起きたことが面白かったです。

短い滞在中にも、折々に格差社会アメリカの現実を垣間見る思いもしましたが、そんな中、脳損傷をもつ方々に分け隔てなく支援したいとするグループのクラブハウス立ち上げの構想も聞きました。

これらノースカロライナの脳損傷関連施設の見学については、いずれ、もう少し詳しくご報告したいと思っています。

以上